

超音波画像装置を用いて経過観察を行った豆状骨単独骨折について

○山口 雄一郎¹⁾, 山口 登一郎¹⁾²⁾, 栗原 友介³⁾

(¹⁾山口接骨院, (¹⁾²⁾東京有明医療大学, (³⁾医療法人社団宏友会 栗原整形外科)

Key words : pisiform bone, isolated fracture, ultrasonograph

[背景]

豆状骨骨折はすべての手根骨骨折において約 2%で発生し, 約半数以上が橈骨遠位端部骨折や他の手根骨骨折と合併して発症する. 中でも比較的稀な豆状骨単独骨折は先行研究によると, 初診の際に X-p 画像上では他の手根骨重なり見逃されることが多く, 受傷初期に適切な診断と処置が行われなかった例では偽関節を引き起こす可能性があるとして報告されている.

[目的]

X-p・MRI・CT 画像による報告が散見されたが, 超音波画像観察装置(以下 US)による報告が見られない. そこで, 今回は US を用い保存療法を行った症例報告をする事を目的とした.

[症例]

79歳男性(軽度の認知症), 自転車にて走行中, 転倒した際に左手掌部を地面に衝き負傷した. 症状は豆状骨の限局性圧痛, 手関節掌尺側の腫脹, 皮下出血斑, 手関節の軽度の屈伸時痛等がみられ, US にて豆状骨の長・短軸像を描出し骨表面の不規則像も観察された. なお, 指関節の屈曲・伸展・内転・外転の機能障害は無く, 尺骨神経領域の知覚異常, 触診での骨変形もみられなかった. 応急的に固定を行い整形外科へ精査を依頼し豆状骨骨折の診断を受けた(図1,2). 整形外科にて手関節軽度屈曲・尺屈位にてギプス固定を施行し, 当院と整形外科にて経過観察を行っていたが, 受傷約 2 週間後の深夜に自身でギプスを破壊し, 翌朝当院に来院した. その後, 当院にて手関節軽度屈曲・尺屈位にて前腕中央尺側部から第 4・5 指 MP 関節までにプライトン固定を施行し経過観察を行った(図3). 受傷約 5 ヶ月後の最終観察時では, Quick DASH が 2.3 点, Cooney の評価法(改変)が Excellent であり, US 像においては骨折部の間隙がおおいた消失し良好な結果を得た(図4).



図.1 X-p 画像

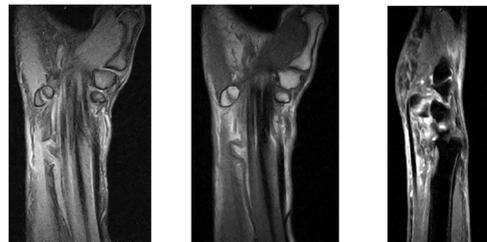


図.2 MRI 画像



図.3 外固定外観

超音波画像(短軸像)

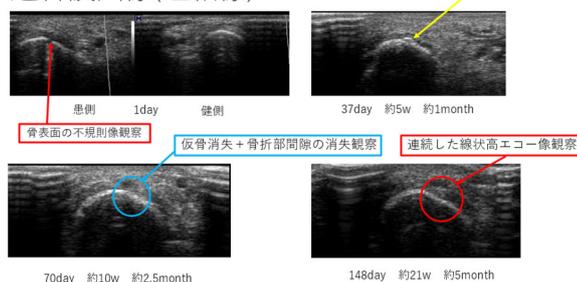


図.4 超音波画像

[考察]

問診・視診・触診等に加え, 現在柔道整復師が他覚的画像所見として臨床現場にて唯一使用できるのは US である. 今回の豆状骨単独骨折は手部の外傷では稀であり見逃しやすい骨折であるが, 臨床所見と US を用いることでそれを防止出来るともに, 良好な結果を得ることも可能であると推察された.

[参考文献]

- 1) 生越英二. 豆状骨単独骨折の 1 例: 島根医学, 2018, 38(2), 46-48
- 2) 安部淳, 樋口理, 松村利昭. 豆状骨単独骨折の 2 症例: 整形外科と災害外科, 1990, 38(4)1377-1382
- 3) Lars Brouwers. Nonunion of the pisiform bone in a 9-year-old boy: Hand(NY), 2015, 10(2), 309-313
- 4) Filon Agathangelidis. Open pisiform fracture: BMJ Case Rep, 2013, bcr2012-007621
- 5) Youn Moo Heo. Evaluation of Associated Carpal Bone Fractures in Distal Radial Fractures: Clin Orthop Surg, 2013, 5(2), 98-104